

「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等(平成26年11月分)について

(1) 問い合わせ件数

平成26年11月4日～平成26年11月30日 56 件

(うち、放射性物質関連 0 件)

(2) 内訳

項目	件数	主な内容
① 食品安全委員会関係	3 件	
委員会	0 件	
リスクコミュニケーション	3 件	HP掲載記事関連(3 件)
基本法	0 件	
② 食品健康影響評価関係	15 件	
評価全般	0 件	
化学物質系	14 件	アクリルアミド(6 件)、食品添加物(4 件)、トランス脂肪酸(2 件)、カフェイン(1 件)、流動パラフィン(1 件)
生物系	1 件	豚肉の生食(1 件)
新食品	0 件	
プリオン	0 件	
その他	0 件	
③ 食品一般(リスク管理等)関係	36 件	
化学物質系	13 件	食品添加物(7 件)、農薬(2 件)、トランス脂肪酸(1 件)、カフェイン(1 件)、器具・容器包装(1 件)、動物用医薬品(1 件)
生物系	1 件	腸管出血性大腸菌(1 件)
新食品	1 件	遺伝子組換え食品(1 件)
プリオン	0 件	
衛生関係	11 件	異物混入(3 件)、衛生管理(3 件)、安全性(3 件)、変色(1 件)、輸入食品(1 件)
食品表示関係	8 件	期限表示(5 件)、原料原産地表示(1 件)、アレルギー表示(1 件)、景品表示法(1 件)
その他	2 件	ナノ食品(1 件)、開業規制(1 件)
④ その他	2 件	

(参考) 問い合わせ件数推移

H25 年		H26 年										
11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
51	49	89	72	54	62	55	54	89	49	65	59	56

(3) 主な質問とその回答

○食品健康影響評価関係

【アクリルアミド】

・食品安全委員会が、ポテトチップスなどにアクリルアミドという発がん物質が含まれているという警告をした、との記事を週刊誌等を見た。ポテトチップスが好きでよく食べるが、心配である。

⇒アクリルアミドは、炭水化物を多く含む食材を高温で焼いたり揚げたりする際、副生成物として生成され、スナック菓子・ビスケット類・パン類・フライドポテト・米菓・麦茶・コーヒー類など、炭水化物を含む様々な食品中に含まれており、国際がん研究機関による発がん性分類において、「ヒトに対しておそらく発がん性がある」物質に分類されている。

食品安全委員会では、安全性について評価を行っている最中であり、動物実験の結果からは、アクリルアミドは遺伝毒性発がん物質と考えられるが、ヒトにおいては、現時点では疫学研究等のデータが不十分であり、今後、国内の曝露データの収集等を進めた上で、引き続き審議を行うこととされた。

なおポテトチップスのメーカーにおいても、アクリルアミドの低減対策への取組は進んでいると聞かすが、リスクを下げるにはバランスのよい食事が重要である。当委員会では、アクリルアミドについて、ホームページやフェイスブック等による情報発信を行っている。

【トランス脂肪酸】

・マーガリンにはトランス脂肪酸という有害物質が入っており、欧米では、すでにマーガリンが禁止されたと聞いたが、情報を教えてほしい。

⇒トランス脂肪酸は、その割合が総エネルギー摂取量の3%を超えた位で、冠動脈疾患のリスクが高まるという報告があり、WHOでは、総エネルギー比で1%未満に抑える目標を立てている。食品安全委員会ではトランス脂肪酸の健康影響評価を行い、その結果、日本では、トランス脂肪酸の摂取量は平均でエネルギー比の0.3%程度であり、問題になるようなレベルではないとしている。しかし、脂質を多く含む食品を大量に取っている人は、トランス脂肪酸だけでなく、飽和脂肪酸の摂取量が増える事が懸念される。トランス脂肪酸や飽和脂肪酸に限らず、脂肪の取りすぎは健康に良くないので、脂肪摂取量全体の低減を推奨しており、バランスのよい食生活が大切である。

当委員会ではトランス脂肪酸について、ホームページ等による情報発信を行っている。なお、米国ではトランス脂肪酸摂取量がエネルギー比2.2%にのぼっていたため低減対策に取り組んでいる一方、ドイツではトランス脂肪酸の摂取による健康影響はない（エネルギー比0.66%）としている。

【食品添加物】

・コンビニ弁当について調べている。コンビニ弁当には多くの食品添加物が含まれており、また、表示は入っている量の多い順に書いてあるようだが、何がどれ位入っているか、などが分かりにくい。健康にどのくらい影響があるのか、不安である。

⇒食品安全委員会では、食品添加物の特徴、体内蓄積性や、さまざまな動物を使った安全性試験の結果を基に、ヒトへの健康影響について評価を行っており（リスク評価）、その結果を厚生労働省に通知している。厚生労働省は、その結果を基に使用基準等を設定し、食品添加物のリスク管理を行っている。

このように、食品添加物は、安全性が確認されたものが使用されている。参考資料として、食品安全委員会や厚生労働省のホームページも是非ご覧いただきたい。